

Ⅲ 契約指定野菜安定供給事業に関する業務

1 交付予約数量及び資金造成額

平成 18 年度の交付予約数量は、8 登録出荷団体等、24 業務区分の 8,873.1 トンとなった。

事業タイプ別でみると、価格低落タイプが 726 トン、出荷調整タイプが 3,920 トン、数量確保タイプが 4,227.1 トンであり種別別でみると、夏秋キャベツ、冬キャベツ、冬春きゅうり、夏だいこん、たまねぎ、冬春なす、ばれいしょ、冬春ピーマン、夏秋レタス[結球]及び冬レタス[結球]であった。

道府県別では、北海道、青森県、長野県、愛知県、高知県、熊本県及び宮崎県の 7 県であった。

資金造成額は、116,197 千円となった。内訳は、価格低落タイプが 59,277 千円、出荷調整タイプが 49,942 千円、数量確保タイプが 6,978 千円であった。

2 生産者補給交付金等の実施状況

平成 18 年産の市場価格は、4 月は 3 月から続く低温・天候不良の影響を受け、特に果菜類・葉物類が生育不良となり入荷量が平年を下回ったため、価格は堅調に推移した。

5 月に入り、関東以西で日照時間が短く記録的なものとなり、6 月に入っても曇天の日が多く、特に北日本の日照時間は記録的な短さであった。7 月に入っても 6 月から続く日照不足の影響を受け、生育不良となり野菜全般に市場価格は高めに推移することとなった。8 月以降、全国的に降水量が少なく気温が高い傾向となり天候が回復したが、以前からの品薄感から野菜の市場価格は堅調に推移した。10 月以降は全国的に気温が高く、日照時間は平年並みで推移し、全般的に野菜の生育に適した気候であったことから葉物を中心に野菜の生育が進んだ。特にだいこん・はくさいが好天に恵まれ、豊作だった上に、気温が高かった影響で鍋物需要も伸びず安値で推移したことにより、11 月下旬には緊急需給調整(産地廃棄)が実施された。さらに 12 月上旬にはキャベツにおいても生育が順調であり、玉太りもよく、豊作基調となったことから緊急需給調整(産地廃棄)が実施された。

このような気象動向を反映し、冬春きゅうり、冬春なす、夏だいこん、夏秋レタス[結球]の価格低落タイプで生産者補給交付金等の交付を行うこととなった。

交付金交付額は、3,158 千円であった。

表11 平成18年度契約指定野菜安定供給事業に係る交付予約数量及び資金造成額

①事業タイプ別

(単位：t、千円)

	交付予約数量	資金造成額
価格低落タイプ	726.0	59,277
出荷調整タイプ	3,920.0	49,942
数量確保タイプ	4,227.1	6,978
合計	8,873.1	116,197

②種別別

(単位：t、千円)

	交付予約数量	資金造成額
夏秋キャベツ (7～10月)	120.0	1,862
冬キャベツ (11～3月)	61.0	1,152
冬春きゅうり (11/21～6月)	443.0	38,352
夏だいこん (7～9月)	30.0	909
たまねぎ (8～6月)	7,849.0	49,657
冬春なす (12～6月)	107.0	11,045
ばれいしょ (10～3月)	70.0	1,070
冬春ピーマン (1～5月)	32.0	3,540
夏秋レタス(結球) (6～10月)	114.0	5,431
冬レタス (12～3月)	47.1	3,179
合計	8,873.1	116,197

③都道府県別

(単位：t、千円)

	交付予約数量	資金造成額
北海道	7,790.0	49,150
青森県	30.0	909
長野県	234.0	7,293
愛知県	163.0	2,000
高知県	582.0	52,937
熊本県	27.0	729
宮崎県	47.1	3,179
合計	8,873.1	116,197

表12 平成18年度交付金交付額

①事業タイプ別 (単位：千円)

	交付金交付額	備考
価格低落タイプ	3,158	
出荷調整タイプ	0	
数量確保タイプ	0	
合計	3,158	

②種別別 (単位：千円)

		交付金交付額	備考
冬春きゅうり	(11/21～2月)	694	
夏だいこん	(7～9月)	101	
冬春なす	(5～6月)	54	
冬春なす	(12～2月)	113	
冬春なす	(3～4月)	217	
夏秋レタス(結球)	(6～7月)	860	
夏秋レタス(結球)	(8～10月)	1,119	
合計		3,158	

③都道府県別 (単位：千円)

	交付金交付額	備考
青森県	101	
長野県	1,979	
高知県	1,078	
合計	3,158	